

NUTEC プラスチック国際ハイレベル・フォーラム 遠藤大使御挨拶

最初に、本国際ハイレベル・フォーラムの開催を歓迎するとともに、参加できたことを大変光栄に思います。

海洋プラスチック汚染は、世界が直面する重要な環境問題の1つです。この問題の解決には、汚染の実態を正確に把握するための科学的知見の確立とモニタリング手法の調和、そして、増え続けるプラスチックの効果的なリサイクルと資源としての再利用が喫緊の課題となっています。さらに、国際社会全体で協力し、実効性のある国際的な枠組みを構築することも不可欠です。

これらの課題に対し、本ハイレベル・フォーラムは、原子力科学技術を活用した画期的なリサイクル技術の進展や、国際的なモニタリング協力の強化、さらには多国間の議論を促進する上で極めて重要な

機会となります。

日本は、S D G s の達成を含む地球規模の課題の解決に貢献する原子力科学技術を重視しており、この点に関する国際協力を強化してきました。

特に海洋プラスチック問題においては、上記のような課題を解決すべく、日本は様々な貢献をおこなっています。

まず、グロッシー事務局長のイニシアティブによる NUTEC プラスチックの取組を高く評価し、立ち上げ当初から力強く支援してきました。日本政府はこれまでに I A E A に対して約 1 3 0 万ユーロを拠出し、関連する技術協力や共同研究プロジェクトを支援してきました。具体的には、本イベントを主催しているフィリピン、インドネシア、マレーシア、タイのパイロット国において、将来的な社会実装に向けた、放射線照射を用いたプラスチックのリサイクル技術の発展を支援しました。フィリピンでは、

こうしてリサイクルされた資材を、住宅の建築等に活用する研究が進められているものと承知しております。資源を有効活用するとともに環境問題にも対処する素晴らしいイニシアティブであり、敬意を表するとともに、日本がその一助となれたことをうれしく思います。加えて、日本は、海洋プラスチック汚染に関する海洋環境監視のための機材提供や人材育成を支援しています。このように、日本は、上流及び下流の双方の面で、NUTEC プラスチックに貢献してきています。

また、NUTEC プラスチックを超えて、日本は海洋プラスチック問題に関するより広範な国際協力の取組を主導してきました。2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を提唱し、進行中のプラスチック条約交渉にも積極的に参加しています。本年8月にジュネーブで

行われた第5回交渉会合の再開会合(INC5.2)においては、日本として、条約の主要な規定について非公式な協議を主導するなど、内容面での議論の促進に向けて精力的に取り組みました。現在、関係国間で交渉再開に向けた取組が進んでいるところですが、日本としては、引き続き、主要なプラスチック大量消費国・排出国が参加する実効的な枠組みが早期に構築されるよう、早期の交渉妥結に向け、積極的に議論に貢献していく所存です。

さらに、プラスチック汚染に関する科学的な基盤整備を目指し、日本は、IAEAを含む多くの専門家とともに、海洋マイクロプラスチックごみのモニタリング手法の調和やデータ整備を通じた国際協力を進めており、その成果として、昨年5月には、マッピング機能を備えたデータベース「アトラス オブ オーシャン マイクロプラスチック、通称アオミ (AOMI)」を公表しました。また、ASEAN 諸国を

中心に、プラスチックのモニタリング技術協力も行っています。

最後に、海洋モニタリングやリサイクル技術の進展と普及は、あり得べき条約の実施を含め、海洋プラスチック汚染対策を実効的に進める上で鍵を握っています。我が国が持つリサイクルや原子力科学技術の知見を存分に活用しつつ、IAEA およびパートナー機関と緊密に協力し、この問題の持続可能な解決に向かって取り組んでいきます。

ご清聴、誠にありがとうございました。